

商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2026年5月調査結果-

調査概要

- 調査期間 2026年5月21日～5月31日
- 調査対象 200社
- 回答企業 120社
- 回収率 60.0%

※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

なお、従業員の項目については、DI値ゼロを基準として、プラス値は人員不足感を表し、マイナス値は人員過剰感を表している。

DI値 = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) / 売上：(増加) - (減少) / 仕入単価：(下落) - (上昇)

販売単価：(上昇) - (下落) / 従業員：(不足) - (過剰)

旭川市概況※全産業の5月の状況を見ると業況DIは、前月より7.8ポイント悪化の▲36.7となった。

2017年9月以来105ヶ月連続でマイナス水準を推移している。

※向こう3カ月の全産業における、先行き見通し業況DIは▲35.0、当月と比べ1.7ポイント改善が見込まれる。

旭川市全産業 DI 値（前年同月比）の推移

	2025年 12月	2026年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 2026年6月～ 2026年8月
業況	▲13.6	▲18.7	▲22.8	▲19.4	▲28.9	▲36.7	▲35.0
売上	▲6.4	▲3.9	▲12.2	▲7.7	▲10.3	▲10.0	▲21.6
採算	▲15.2	▲21.1	▲17.0	▲17.8	▲23.8	▲30.9	▲35.0
仕入単価	▲56.0	▲53.2	▲55.2	▲62.8	▲68.9	▲69.1	▲69.2
販売単価	20.8	26.5	26.8	27.1	30.4	30.0	40.0
従業員	32.0	34.3	35.0	37.2	30.4	27.5	30.9
資金繰り	▲15.2	▲14.9	▲15.4	▲14.7	▲16.3	▲14.2	▲13.4

旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

	2025年 12月	2026年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 2026年6月～ 2026年8月
建設	▲35.7	▲34.5	▲27.6	▲24.2	▲40.0	▲46.2	▲38.5
製造	▲6.6	▲13.8	▲17.2	▲17.3	▲25.8	▲29.6	▲33.3
卸売	▲13.3	▲17.9	▲27.0	▲21.4	▲14.8	▲22.2	▲22.2
小売	▲26.7	▲35.3	▲25.0	▲44.4	▲33.4	▲45.0	▲45.0
サービス	13.7	4.0	▲17.4	▲4.0	▲30.8	▲45.0	▲40.0

今月のトピックス（業界の声・経営上の問題点）

建設業	・中東情勢の影響による資材価格の高騰、調達不安が顕在化してきている。今後この状況が続けば、厳しい経営を強いられることになる。（総合工事） ・ベルシャ湾封鎖による原油やナフサ不足が懸念され、辛うじて資材調達はできているが価格は高止まりしている。深刻な採用難に対処するための賃金増額も実施したが、業界環境は厳しい。政府が方針を示す補正予算の編成が冷え込む投資意欲の反転など業界にとって好転の契機となるか強く注視している。（設備・その他） ・ナフサショックにより、資材不足や納期未定といった現場への影響がより深刻化している。特に断熱材、ユニットバス、塗料、接着剤、配管材などの住宅建築に欠かせない資材で影響が出ており、工期遅延リスクが生じている。今後、資材高や円安が続き金利上昇となれば、住宅購入負担は大きくなり、建築会社にとっては極めて厳しい経営環境といえる。（建築業）
製造業	・資材の高騰が著しく採算へのマイナス影響大。資材供給の制限、停止に伴う売り上げ減の懸念も増加。（食料品） ・イラン情勢の影響が出始めている。石油精製品の価格が上がり、品薄感も感じる。食料品の値上がりもあり、木製品の需要が落ちている。（家具・木材） ・コロナの影響が落ち着き好転かと思われたが、今度はイラン情勢悪化で資材の高騰と受注量の不安定感もあって先行きは不透明な状況。（家具・木材） ・塗装関係の材料が40%程度値上がりし、入荷も遅れている。約1ヵ月程度は納期遅れが予想される。鋼材も15%程度上昇している。（金属窯業他）
卸売業	・イラン情勢の悪化に伴い、ナフサ不足が影響して製品の出荷規制や納期の遅延、値上がりが横行している。これ以上長期化すれば市場にかなりの影響が出て当社にとっても大きな打撃となり得る。（繊維衣服等） ・団子のあんが徐々に値上げし、お茶類は施設等で需要の多い低価格のほうじ茶等が入手しづらい。値上げも著しいがその分価格に上乗せしづらい物もあり苦慮している。（食料品） ・中東情勢により仕入価格の上昇や販売制限などサプライチェーンに乱れが生じてきている。（機械鋼材） ・燃料油の仕入値は小幅に上下を繰り返しているが、販売単価は現行のまま推移するものと思われる。（その他）
小売業	・アメリカ・イラン戦争により物価の高騰につながり商品の値上がりが続き大変売上が厳しい。顧客を中心にアプローチするしかなく、商品が入荷するため資金繰りが困難な状況。（衣服身回品） ・今月も閑散とした状況が続いており、駅前周辺においては人通りが少ない日が目立つ。買物公園通りでは、来街者増加につながるイベントや販促施策が乏しく全体的に人流の回復には至っていない状況。近隣市町村では観光誘致に向けた取り組みが積極的でインバウンドを含めた宿泊地としての利用と来街者増加に期待。（食料品） ・商品の入荷状況が悪い(オイル等)。販売商品、その他商品等の仕入単価の上昇。（自動車） ・イラン情勢が混沌としており数量制限や納期後れがあるため、思い通りの仕入ができない。様々な商品の価格が上昇しており、消費者の節約志向や経費支出増加が採算性に影響を与えている。（その他）
サービス業	・ナフサの影響で養生系の資機材が入らなくなった。（理美容・クリーニング） ・販売単価上昇などで売上は増加したが、ランニングコストの上昇で利益はあまり増えていない。（ホテル・旅館） ・各仕入単価の上昇が価格転嫁出来ていない。また各設備が古いためメンテ及び新設交換に投資が必要。（ホテル・旅館） ・イラン情勢の混乱は収束に向かっているとの報道もあるが長期化することを前提に経営せざるを得ない。非常時の対応として普段より原料在庫を多めに確保する必要がある、通常の流通量が確保されたとしても現状は異常時であるため、各社在庫を増やすことにより流通量が不足するのが道理である。政府にはナフサ他の流通量を通常量の3倍を目途に供給を増やす対策を講じて欲しい。（その他）

旭川市の産業別概況

産業	概況
建設業	売上 DI3.5 ポイント悪化、採算 DI15.7 ポイント悪化、仕入単価 DI6.9 ポイント悪化、販売単価 DI8.5 ポイント改善、資金 DI1.3 ポイント改善、従業員 DI10.0 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 6.2 ポイント悪化となった。業種別では、建築業 36 ポイント改善、総合工事 8 ポイント、設備・その他 34 ポイント悪化となった。中東情勢の悪化による燃料高騰・肥料原料なる尿素の仕入価格急騰で製造原価が上昇し、先行きが見通せないほか、設備投資の機材納期がずれ込み、計画的に設備更新が進められない状況であるとの声も寄せられている。
製造業	売上 DI11.1 ポイント改善、採算 DI12.6 ポイント悪化、仕入単価 DI6.8 ポイント悪化、販売単価 DI1.7 ポイント悪化、資金 DI2.8 ポイント改善、従業員 DI0.9 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 3.8 ポイント悪化となった。業種別では、印刷・出版横ばい、食料品 2 ポイント、家具・木材 4 ポイント、金属窯業他 5 ポイント悪化となった。ゴールデンウィーク中は好調に推移。明けからは平年並みとの声も寄せられている。
卸売業	売上 DI11.1 ポイント悪化、採算 DI 横ばい、仕入単価 DI3.7 ポイント改善、販売単価 DI7.4 ポイント悪化、資金 DI 横ばい、従業員 DI7.4 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 7.4 ポイント悪化となった。業種別では、食料品 4 ポイント、繊維・衣服等横ばい、機械鋼材 14 ポイント、その他 17 ポイント悪化となった。中東関係による 2 度目の製紙メーカーの値上げにより更に減少すると思われるとの声も寄せられている。
小売業	売上 DI1.7 ポイント悪化、採算 DI7.2 ポイント悪化、仕入単価 DI11.6 ポイント改善、販売単価 DI4.3 ポイント悪化、資金 DI8.6 ポイント改善、従業員 DI1.4 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 11.6 ポイント悪化となった。業種別では、食料品横ばい、衣料品 50 ポイント、その他 13 ポイント、自動車 20 ポイント悪化となった。イラン情勢の影響が出始めている。2 月～4 月はまずまずの売上があったが、5 月に入りブレーキがかかっている。仕入れ品の価格値上げの話が出てきているとの声も寄せられている。
サービス業	売上 DI11.1 ポイント改善、採算 DI0.8 ポイント改善、仕入単価 DI3.1 ポイント悪化、販売単価 DI3.1 ポイント改善、資金 DI3.0 ポイント悪化、従業員 DI36.2 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 14.2 ポイント悪化となった。業種別では、飲食、運送横ばい、理美容・クリーニング 50 ポイント、ホテル・旅館 13 ポイント、その他 42 ポイント、整備業 25 ポイント悪化となった。建設資材やエネルギー価格、労務費の高騰により国内民間開発需要は減少傾向にある一方、円安を背景に海外資本による不動産・観光開発需要は活発化しているとの声も寄せられている。